

「生物を取り巻く地球環境は依然として厳しく、2020年には、生物種や生態系の多様性が現在よりも悪化している恐れが高い」先日発表された国連環境計画などの国際チームの報告です。また、内閣府の調査で、「生物多様性」という言葉を聞いたことがないという人が過半数と増え、「人間の生活がある程度制限されても、多様性保全を優先する」人は減少したとの報道もありました。

生物多様性とは、私たち人類を含めた多くの生命が生きていく基盤となる多様な自然のことで、それが失われつつある状況が全く改善されていないというのです。地球環境問題が叫ばれ、今の暮らしを続けていけば地球の生き物が、そして人類が暮らしていけなくなると言われてから約20年、私たちの自然に対する意識は逆に低くなっているのが現状です。

今年26年目を迎えた『うら山観察会』は、「都留の自然と子どもたちの橋渡し」を目的にネズミヤリス、ムササビなど身近な生き物の観察や、季節ごとのうら山の散策（うら山探検）を行ってきました。先日行った「秋のうら山探検」では、赤や黄色などいろいろなタイプのキノコを見つけたり、くつつく実で遊んだり、モグラ塚（モグラが掘った土を地上に出してきた山）の下を掘ってモグラのトンネルを見つけたりして、秋の自然を楽しみました。

うら山には、多くの生き物たちとの出会いの場があちこちにあります。普段何気なく通り過ぎていく足下で、多様な生き物たちがたくましく、すばらしく、そして互いにかげがえのない存在としてつながり合って生きています。怖い、気持ち悪い、嫌いと思ってしまう虫たちも実はかけがえのない存在で、その姿や行動、存在にそれぞれ大切な意味があるのだということは、子どもたちの自己肯定感につながる考え方だと言えます。そして、うら山はそれを教えてくれる教室だと思っています。もつともつとたくさんの子どもたちとうら山で多様な生き物たちと出会ってほしいと思います。

森の探検に参加した子どもたちに感想を聞くと、出会った生き物たちのことだけでなく、木登りが楽しかった、サバイバル（ロープを使う）が楽しかったという声が多く出ます。うら山は本来子どもたちが遊びを通して自然を学ぶ場所なのだと思います。そうでなくなったら今、身近で、そして地球規模で生物多様性が失われていても意識すらできない状況が生まれているのだと思います。今回の報道を重く受け止めて、子どもたちと関わる私たちは、生物多様性の大切さをどう子どもたちに伝えていくか真剣に考えなくてはならないと思います。



毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

連載・青少年健全育成シリーズ 第280回

「多様な自然を子どもたちに」

青少年の声かけあいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ：行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況は、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄